

テーマカフェ
珈琲の美味しい淹れ方と自由な生き方



コーヒーでつながる時間

NPO法人育て上げネットの宮内大志さんをゲストにお迎えし「自分の作ったもので対価を得るのが不安」という若者たちが、無料でコーヒーを提供しながら、さまざまな人や社会とつながり、働く経験を積む支援プログラムについて、その立ち上げのきっかけや想いをお話いただきました。当日はコーヒーの淹れ方も教えていただき、参加者同士がコーヒーを片手に、自由に交流を楽しむひとときとなりました。

●開催日：7月24日(木)

夏休み特別企画 市議会見学会



定員を越える44名の小学生が参加しました!

議会の仕組み・議員の仕事を学び、普段はなかなか見られない議場を見学した後、「議会で話し合いたいこと」を考え、発表しました。参加した子どもたちは、「普段使っている公共施設も市議会で決めて作っていることを初めて知った」、「学んだことを家族や友達に伝えてあげたいと思いました」等の感想がありました。ご協力いただいた市議会議員やボランティアの皆さん、ありがとうございました!

●開催日：8月7日(木)

どなたでもご参加ください! ラコルタの講座・イベント

2025 第10期生 募集! 連続講座全7回

eNカレッジすいた

9/19(金)開校

■どなたでも ■参加費 500円
資料代など 全7回分
■定員 15名 (多数抽選)

まだ間に合う!
お申込みは
こちら!
(多数抽選)



締切:
9月12日(金)

吹田で新しい何かが生まれる・つながる
地域や社会の役に立ちたい。家族や仕事以外のつながりがほしい。そんな思いを共有しながら、ソーシャルな生き方について考えます。

とき	内容
9月19日(金)19:00~21:00	開校式&オリエンテーション
10月3日(金)19:00~21:00	自分再発見ワークショップ①
10月10日(金)19:00~21:00	自分再発見ワークショップ②
10月31日(金)19:00~21:00	「心のエンジンがかかる話し合い」とは?
11月7日(金)19:00~21:00	企画づくり①(グループワーク)
11月21日(金)19:00~21:00	企画づくり②(グループワーク)
12月5日(金)19:00~21:00	企画発表会&修了式
10/24(金)19:00~21:00	『つながる交流会』を開催します(任意参加)

テーマカフェ

9月27日(土)

その服捨てないで!

フリマや手芸等、古着を活用した社会貢献について考えよう。

●とき：10:00~12:00
●定員：先着20名

お申込み・お問い合わせは
ラコルタまで

TEL: 06-6155-3167
FAX: 06-6833-9851
Eメール:
info@suita-koueki.org

※費用が明示されていないイベントは無料。
※申込期限の記載がなければ前日まで。

毎月開催! 「ボランティア・NPO初歩講座」...9月21日(日)13:30~15:00、10月21日(火)19:00~20:30

編集ノート

こんにちは。4月に新しく入職しました小佐田です。実は私は「eNカレッジすいた」の修了生でもあります。そこからさまざまなつながりが広がり、今こうして、職員としてラコルタで働くことになりました。これからは、人と人とのつながりの中から、新しいものが生まれることを応援していきたいと思っています。(小佐田)

＜発行責任者＞ 春貴勇力
＜編集スタッフ＞ 茨木由美・入江陽子
大西千尋・小佐田純子・芝 颯香
住岡譲太郎・柳瀬真佐子・山本泰秀

ラコルタ

吹田市立
市民公益活動センター

VOL.52

出会う→集う→育てる→実る

ここに注目! 特集
地域で活動する学生たち
~自分たちの活動って「ボランティア」?~

「市民公益活動」は市民が自発的に行う社会貢献活動です。
市民公益活動センター(愛称:ラコルタ)は市民の力で吹田市をより良いまちにするため、これらの活動を支援しています。



子どもたちが育ち合う
環境を地域につくる



私たちが暮らす
地域や社会の事を
他人事ではなく自分事にする。
そういった「ソーシャルな生き方」の
魅力をお伝えします。

いきともこ
第37回 伊木 知子さん
パンサー少年団 保護者代表
吹田市生まれの3児の母。
2016年、かつて一緒に活動していた仲間が継続する少年団*に、当時小学4年生の長女と参加し、現在に至る。

※小~中学生までの子どもたちが、自分たちで考えた遊びや行事を行う全国的な地域活動。高校生以上の青年指導員が活動をサポートしている。

■**団で育った子ども時代**
両親は共働きでしたが、寂しく感じることはありませんでした。それは、小学1年生のときに入った少年団があったからだと思えます。学区も年齢も異なる仲間と遊んだり、合宿に行ったり、とにかく楽しかったです。
中学生になると、団の運営に関わることから、当時は「なんでこんな会議ばかりやるんやろ?」と思ったこともありました。

■**子どもが主人公の団運営**
団の運営は、中学生以上の子どもが中心となります。異なる意見や少数の声にも耳を傾け、話し合いを重ねながら、みんなで調整し、前に進んでいく。そんなやり方を、会議を通して少しずつ身につけていったように感じています。合意形成の難しさと、その大切さを実感したこの経験は、今の私自身の土台になっています。

■**保護者の立場になって**
子どもたちは、「あんな中学生になりたくない」「高校生ってすごい」と憧れの存在として見て育ちます。そして、自分たちが団のお兄さんやお姉さんからしてもらったことを、自分より年下の子に自然とあげられるようになるんです。
保護者として関わる中で、ついつい口を出したくなりますが、自然と育ち合いが起きているこの活動をそっと見守りながら、バトンを繋いでいきたいです。

学ぶ ボランティア・NPO 初歩講座

興味がある方、活動はしているがもっと理解を深めたい方など。「出前講座」も承ります。お気軽に!
●毎月開催! ●定員 10名

やってみたい!の聲に
お応えします!
見つけよう!
自分にあった
ボランティア

単発! 短時間! **ぷちボラ** 体験

働きざかりの方や家事・勉強に忙しい方など週末や余暇の新しい過ごし方として。初心者の方でも気軽に参加できます!
(例)お弁当作り・喫茶・竹林整備など



ラコルタ | 吹田市立市民公益活動センター 〒565-0862 吹田市津雲台1丁目2番1号 千里ニュータウンプラザ6階
TEL: 06-6155-3167 FAX: 06-6833-9851 Eメール: info@suita-koueki.org

指定管理者 NPO法人 市民ネットすいた

地域で活動する学生たち

～自分たちの活動って「ボランティア」?～

追手門学院大学
地域創造学部

1年生

#循環利用
#共創
#千里の竹の魅力発信



チーム竹未来
代表 吉田 紗弥さん

2023年4月立ち上げ。高校生～シニアまで幅広い世代のメンバー6人が個性を活かしながら活動している。

大阪大学
経済学部

3年生

#古着
#フリマ
#服と人のつながり



FASHLOOP (ファッシュループ)
代表 三浦 竜希さん

古着回収活動やフリマを通じてみんなのファッションを循環させるため、2025年4月に立ち上げたサークル。

大阪公立
大学大学院
農学研究科

2年生

#遊びにこれる
#学びにこれる
#ご飯を食べにこれる



にこれる
代表 辻 翔吾さん

2022年立ち上げ。学習支援と子ども食堂を高校生～大学院生のスタッフが約50人で運営している。

活動していること

吉田 千里に多い竹を使って、竹あかりのワークショップを行ったり、キャンドルイベントで展示したり、廃材竹チップで植物を育て、植物発電実験をしたり…やることが多すぎてうまく説明できないので、見てもらえたら嬉しいです。

三浦 古着のフリーマーケットサークルです。万博記念公園等のイベントに出店してはいますが、もっと地域の人たちと一緒にやりたいと思ったんです。今準備を進めてはいますが、ラコルタに古着の回収ボックスを設置して、その古着の販売収益を吹田市の「みんなで支えるまちづくり基金」に寄附するという活動を始めようと思っています。

辻 小学生から高校生の学習支援と、勉強の合間に一緒にご飯を食べる子ども食堂をやっています。月水金の週3回やっていて、子どもたちは毎回10～15人ぐらい来てくれますね。

きっかけは?

辻 大学生になったら、何かしら「意味あること」をしたいなと思っていたんですが、ちょうどその時、アルバイト先の塾の先輩が社会人の方と一緒に学習支援の団体を立ち上げるって話が出て、自分も一緒にやり始めたのが最初です。

そこから色々あって、**学生のメンバーだけで学習支援や子ども食堂をやりたい**という話になり、2022年に「にこれる」を立ち上げました。

三浦 サークル自体は、古着好きのメンバーで立ち上げただけなんです。そこに地域とのつながりをつくりたいと思ったのは、大学の講義がきっかけですね。

箕面、豊中、吹田の市民公益活動センターを通じて地域の活動を学んだんですが「こんな面白い活動があるなんて全然知らなかった」って思ったんです。「にこれる」のことも、その時知って「学生だけでやるなんてすごい!」って思いました。講義が終わった後、**自分も何かやってみたくなっ**

て、自分が好きなことや得意なことでも何かできないかなとラコルタに相談しました。そこから地域の人たちとイベントで関わるようになってやりがいや楽しさを感じたんです。

吉田 「チーム竹未来」は、千里中央で行われたワークショップがきっかけです。そこで一緒になったグループの人たちで立ち上げました。

ただ、今思うと地域での活動の一番最初の出会いは、住んでるマンションですね。すごく積極的に開かれているコミュニティという感じで、防災とかいろんなイベントでマンション内の人たちが繋がっていたり、お祭りで地域の人と繋がっていたり、いつもすごく盛り上がりしていました。

物心ついた時から、それが当たり前だったので、ボランティアとか地域での活動は身近でしたね。

だから団体立ち上げるのも、「やってみるか〜!」みたいな感じでした。

近年、地域社会の課題解決に向けて多様な市民公益活動が開かれる中、若い世代の関わりはその未来を担う重要な可能性として注目されています。

『全国学生1万人アンケート～ボランティアに関する意識調査2023～』(日本財団)で「過去1年間にボランティア活動を行ったことがない」と答えたのは75.3%ですが、そのうち57.5%がボランティア活動への参加を希望しています。2017年調査結果と比較しても大きな差異はなく、コロナ禍以前の水準まで、ボラン

ティア活動への参加意欲が高まってきました。

そんな中、地域では独自の団体を立ち上げて、ボランティアや市民公益活動を主体的に行っている学生がいます。本特集では、吹田市・豊中市を中心に活動をしている学生3人に対談をお願いしました。お話を伺うと、活動内容はもちろん、背景やきっかけも様々な一方で、共通点も見えてきました。

「ボランティアや市民公益活動に関心はあるが、まだ一步が踏み出せてない」若い世代にとって、少しでもヒントになれば幸いです。

活動を続ける理由は?

三浦 正直に言うと、授業を受けるまではボランティア活動は、地域に貢献したいとか、高尚な精神の人がやるものだと思って、僕は違うかなと敬遠してました。でも今は古着とか**自分の趣味を発展させて、いろんな人を巻き込んでく手段**みたいなところがあると思ってます。

吉田 竹あかりのワークショップを続けるんですが、**小学生からシニアの方まで、いろんな世代の人とつながれるのが大きい**ですね。

活動続けていると「見たことある!」「頑張ってるね!」って言ってもらえるのも嬉しいです。あとは企業の方から連絡いただいたりするの、こうやって活動してるからかなって思います。

辻 最初の頃は子どもたちが来ても1人という日があって、金銭的にも余裕はなかったです。そこから学生スタッフたちで話し合いながら、学校にチラシを配ったり、Instagramやってみたり、色々やったんですよね。でもあんまり効果がなくて、来てくれた子たちの口コミで少しずつ増えてきました。

逆に今はスタッフが足りなくなって、どうやって増やすかを話し合いながらやっています。

そういう試行錯誤を、自分たち学生スタッフ主体でやっていることが楽しいから続けているのかもしれない。

自分たちの活動って「ボランティア」?

吉田 結構聞かれるんですけど、ボランティアという言葉だけだと違和感というか伝わりきらない気がします。

みんなが思うボランティアって災害支援とかごみ拾いとかそういうイメージが多いけど、**自分たちはやりたいことをやっているという感じ**なので。

辻 たしかに団体のことを説明するときはボランティアって説明しますが、**奉仕的な精神でやっているのではなく、楽しくやっているだけ**ですからね。

三浦 全く同意見で、自分がやりたいことを実現するための手段の一つが、たまたまボランティアだったという感覚なんで、ボランティア活動と言われるとちょっと違和感あります。**趣味に地域が掛け算されている感じ**なので。



同年代へ伝えたいこと

吉田 まずはやってみて欲しいです! 実際にやってみて、合わなかったらやめたらいいし、面白って思ったら、またやってみればいいと思うので。

やる前にブレーキをかけるのはもったいないと思います。やってみないと分からないことも多いですね。

三浦 ボランティアって考えるとハードルが高いと思います。自分も昔はそうでした。一方で、**やってみたいこと**っていうのは、みんなあると思うんです。それを**実現するための手段の一つとして、ボランティアとか地域活動もある**ので、そうやって考えてみてほしいですね。

辻 僕はおふたりみたいに、いろんなことやりたいってタイプじゃないんですよ。代表も自分から「やります!」って言ったんじゃないんで、活動続けてたら、いつの間にか代表になってた感じなので。

ただ、**僕みたいに積極的じゃないタイプでも楽しくやれるところ**ですし、いろんな人がいるんで、**自分にはできないかもって決めつけなくてほしい**ですね。

やってみたら、意外と楽しかったりすることの方が多いと思うので、そういう意味でも1回やってみてほしいなって気持ちがあります。

あとがき

「自分の興味関心」や「自分ができること」から始まる、地域での活動

3人も、背景やきっかけ、活動内容は多種多様ですが、共通しているのは「自分の興味関心」や「自分ができること」を大切にしているという点と、地域での活動を本当に楽しんでいるという点です。ボランティアや市民公益活動を、地域・社会の課題やニーズから考えるのではなく、3人のように「**自分の興味関心**」や「**自分ができること**」から**考えてみる**というのも一つの方法だと思います。そうすると、ボランティアや市民公益活動で大切な**主体性は自然と生まれ、やりがいを持って楽しみながら活動が続いていくことができる**のではないのでしょうか。この記事を読んで「地域でちょっとやってみたいことがあるかも」と思った方は、お気軽にラコルタにお越しください!
(スタッフ 住岡)